



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	明治三四年
Citation	北大百年史, 史料(二), 535-551
Issue Date	1981-07-30
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/30079
Type	departmental bulletin paper
File Information	siryo2_p535-551.pdf



明治三四年

九三八 農学校の拡張に関する臨時費概算に付回答

明治卅四年二月十三日

校長印(佐藤)

会計課長印(新井)

当校拡張ニ要スル臨時費之件

別紙本省実業学務局長来電ニ対シ左按ノ通御返信相成可然哉

按

文部省実業学務局長 親展

当校ヲ拡張シ農学科ノ外ニ大学程度ノ農芸化学科、林学科ヲ置キ獣
 医科ハ別科トシ其他現在ノ土木工学科森林科及農芸科ノ入学程度ヲ
 中学校卒業トシ修科ハ三学年ノ課程トナシ当分ノ置キ高等学校
 ニ代用スル計画ニテ臨時費合計凡ソ拾四万参千円三ヶ年継続費トス
 ル見込ナリ内訳新営費(農場及旧校舍移築費ヲ含ム)七万円図書
 機械標本費七万参千円ナリ三十四年度追加予算トシテ御提出拡張ヲ
 実行セラレンコトヲ希望ス

札幌農学校長

字数貳百八十字

料金貳円四十五銭

〔別紙〕

二月十二日

受信人名所 ノウガクコウテウ

キコウシヨウライカクチヨウ五ヶネニヨウスル一リチノ五カヌカク
 オヨビ タイリヤクノ一ウカタカシキウシヨチイタシ一テレ四
 モヲ

訳

貴校将来拡張ニ要スル臨時費ノ概算額及ヒ大略ノ内訳高至急承知致
 シタシ電信ニテ回答アレ

農学校長

文部省実業学務局長

〔北海道大学事務局経理部蔵〕予算 自明
 治三十四年度至明治三十九年度 会計課

九三九 雨竜郡森林を農学校維持資金に編入の件

丑会甲二〇〇号

札幌農学校

別記ノ森林政府ノ交付トシテ其校維持資金ニ編入ス

明治三十四年三月四日

文部大臣松田正久印

記

北海道石狩国雨龍郡深川村

一 森林大凡参万町歩

此価格金九万円

付一 基本林三万町歩譲受の旨上申

札農会第九七号

明治三十三年八月一日

書記新井穆^⑨

會計課長^⑨(新井)

校長^⑨(佐藤)

庶務課長^⑨(石田)

書記

基本林授受済ニ付文部省江開申之件

当校基本林ニ編入可相成候森林之内先以石狩国雨龍郡北竜^{〔注〕}ニ於而凡ソ参万町歩丈ヶ先般北海道庁より引渡有之図面上ニ於而授受相済候間左按ヲ以而文部大臣へ御開申并ニ會計課長江移文相成可然乎此段相伺候也

按

基本林授受済ニ付開申

当校基本林トシテ北海道ニ於ケル官林之内先般石狩国雨龍郡北竜村ニ於而凡参万町歩北海道庁ヨリ引渡ヲ受ケ受領候条此段開申候也

明治三十三年八月四日

校長名

文部大臣宛

又

当校基本林トシテ曾而北海道石狩、天塩之両国ニ於而五万町歩ノ森林譲受之件ニ就テハ屢々往答仕候処右之内先般参万町歩丈ヶ石狩国雨龍郡北竜村ニ於而北海道庁ヨリ図面ヲ以而仮ニ引渡ヲ受ケ該受領証書貴庁江送付済ニ付本日大臣江授受結了之旨開申仕候条右ニ御承知有之度將タ亦残余の貳万町歩モ林種調査済之上ハ至急引渡相成度旨内務省江御照会方可然御取計有之度此段併而申進候也

明治三十三年八月四日

学校長名

文部省総務局會計課長宛

追而本文森林参万町歩之評価之義ハ目下其筋江問合中ニ付其内申報可仕候間左様御承知置有之度為念申添候也

〔注〕 雨龍郡北竜村は同郡深川村の誤りである旨、明治三十三年九月二八日付で北海道庁より通知があった。

付二 基本林として五万町歩割譲方稟申

札農秘第二三号

本校資金増殖ノ義稟申

本道拓殖ノ進運ニ件ヒ益農工ニ関スル教育施設ノ擴張ヲ要シ候処本校ノ資金ノ未タ充分ナラスシテ将来学事ノ擴張ニ資スルコト能ハサル次第ニ付此際適當ノ財源ヲ得候ハ、本校経済ノ基礎ヲ鞏固ト致度

過般本道官林ノ内本校基本林トシテ拾万町歩割譲ノ義北海道庁ヘ照会ニ及候処五万町歩引渡ノ義ハ差支無之旨回答有之候右ハ本校永遠ノ資金ニ供度候条速ニ主務省ヘ御協議ノ上本校資金ニ編入セラレ候様御詮議相成度別紙往復書類ヲ添ヘ此段稟申候也

明治三十二年四月十日

校長

文部大臣宛

〔別紙一〕

林親第一四号

客月十三日付ヲ以テ貴校基本林トシテ山林譲与之義ニ付御照会之趣了承右ハ本年ヨリ施行スル林種調査結了ノ上ニアラサレハ御確答致兼候得共大凡五万町歩御引渡ノ義ハ差支無之ト被存候間右ニ御承知相成度依命此段及御回答候也

明治三十二年四月八日

北海道庁殖民部長事務官永井環印

札幌農学校長佐藤昌介殿

〔別紙二〕

札幌秘第一五号

本校基本林ニ関スル件

本道拓殖ノ進歩ニ伴ヒ実業教育拡張ノ必要ヲ被認候ニ付明年度ヨリ本校ニ森林科ヲ新設シ森林教育ノ普及ヲ謀ル計画ニ有之爾後モ拓殖

ノ趨勢ニ応シ益農工其他実業ニ関スル教育ノ設備ヲ整ヒ學術ノ普及ヲ謀リ以テ実業振興ニ資スル所有之度見込ニ候処如何セン本校ノ財源不充分ニシテ拡張費ヲ支辨難致甚タ遺憾ノ次第ニ有之就テハ貴庁御所轄官林ノ内本校基本林トシテ拾万町歩ヲ譲受本校永遠ノ資金ニ供度候条適當ノ箇所御選定ノ上此際御割譲相成候様致度右御割譲ノ上ハ適當ノ施業方按ヲ確定シ之ニ依リテ営林及造林上諸般ノ管理ヲナシ併テ将来本道森林業ノ模範ト相成候様夫々方法設定可致候条何分ノ御報答相成度別紙設計要領相添此段及御照会候也

明治三十二年三月十三日

校長

北海道庁殖民部長宛

追伸本件ハ主務省ヘ稟議ノ都合モ有之候条速ニ御報答ヲ煩ハシ度此段申添候也

設計要領

- 一 本道ノ森林ハ天然ニ生育セシ樹林ニシテ樹種樹齡同一ナラス枳伐作業ヲ施行シテ以テ天然更新ヲナサントス
- 一 本道ノ造林事業ハ未タ試験時代ニ属シ且ツ生産費ヲ要スルコト多クシテ損益相償ハス故ニ造林ハ一小部分ヲ施行シ其結果ヲ試験セントス
- 一 林道ノ開鑿及防火線設置ハ森林調査ノ結果ニ因リ他日之ガ設計

ヲ立ルモノトス

一 森林調査ハ斯道ノ技術者ヲシテ之ニ従事セシメ以テ適當ノ択伐作業ヲ経営セシムルモノトス

一 森林面積十萬町歩中無立木地及不生産地ヲ二萬町歩トシ利用面積ヲ八萬町歩トス

一 択伐施業面積ハ年伐面積千四百五十町歩トシテ総面積ハ七萬式千五百町歩トシ回帰年ヲ五十年ト定ムルコト

一 造林面積ハ七千五百町歩トシ毎年五十町歩宛造林シ百五十年ニテ総面積ヲ造林スルコト

一 択伐材積ハ一町歩平均五百尺メトシ其内六割ヲ伐採シ一ケ年総材積四十三萬五百尺^{「ママ」}メヲ得ル見込ナリ併シ本道ノ人口未タ稀少ニシテ運搬ノ便ト需用ノ量ハ多量ノ材積ニ而モ販路少ナカルヘキヲ以テ市場ノ状況ニ応シ斟酌スル見込

一 造林地皆伐材積ハ宅町歩平均五尺^{「ママ」}メトシテ五十町歩ヨリ貳萬五千尺メヲ得ル見込

一 前二項ノ総材積四拾六萬尺メニシテ是ハ最多ノ伐採量ヲ示セルモノナリ

付三 基本林譲渡に付内務省よりの回答送付の件

亥会甲一五五〇号

北海道ニ於ケル森林五萬町歩譲受ノ件ニ関シ本年四月十日付札農秘第二三号ヲ以テ稟相成候ニ依リ内務省ヘ照会相成候処今回同省次官ヨリ別紙写ノ通照会有之候条先以テ御意見承知致度曩ニ貴校ヨリ北海道庁ヘ御協議ノ次第有之候間尙一応同庁ヘ御交渉ノ上何分ノ御回答相成度此段及御照会候也

明治三十二年九月廿七日

文部大臣官房會計課長文部書記官寺田勇吉印

札幌農学校校長農學博士佐藤昌介殿

〔別紙〕

文甲第六号ノ内

札幌農学校基本財産トシテ北海道森林五萬町歩譲受ノ件ニ付其經營方法等ニ関シ亥会甲第九二四号ヲ以テ御回答之趣了承右ハ林制未確定ノ今日ニ於テ林積ニ多大ノ変更ヲ及ホスカ如キハ拓殖上支障尠カラス候条御要求ノ林積ヲ貳萬町歩位ニ減少シ且石狩国以南ニ於テ可成一筆ニ取纏メ御要求相成候様致度此段及御照会候也

明治三十二年九月十九日

内務次官小松原英太郎 印

文部次官奥田義人殿

〔農九五三〕

九四〇 土地貸下規程改正の件

○文部省告示第八十四号

明治三十一年文部省告示第五十四号札幌農学校ノ資金ニ属スル北海道土地貸下規程中左ノ通改正追加ス

明治三十四年四月四日

文部大臣松田正久

第七条 貸下料ハ土地ノ肥瘠便否ニ依リ宅地ハ一箇月一坪ニ付金壹厘以上耕地ハ一箇年三百坪ニ付金貳拾錢以上ヲ以テ契約シ満四箇年毎ニ更正スルモノトス

貸下料ハ宅地ハ毎月耕地ハ毎年八月及十一月札幌農学校ヨリ発スル納入告知書ニ依リ指定ノ期限内ニ納付スヘシ但借地人ノ都合ニ依リ数箇月分又ハ一箇年分ヲ取纏メ前納スルモ妨ナシ此場合ニ於ケル既納ノ貸下料ハ中途ニシテ返地スルモ返付セサルモノトス

第七条ノ次ニ左ノ二条ヲ加ヘ第八条ヲ第十条トシ以下順次繰下ク

第八条 借地人天災又ハ凶作ノ為メ收穫ヲ減シ若クハ皆無ニ歸シタルトキハ札幌農学校ニ申出検査ヲ受ケタルモノニ限り耕地ノ貸下料ヲ輕減スルコトアルヘシ

第九条 同年度内ニ於テ返納ニ歸シタル耕地ヲ更ニ貸下タルトキハ返納者若クハ借地人ノ一方ヨリ其貸下料ヲ徴收スルモノトス

第六号書式中第四条割註毎年ノ下「八月及」ノ三字及同条ニ左ノ但

書ヲ加フ

但借地人ノ都合ニ依リ一箇年又ハ数箇月(耕地ニアリテハ又ハ以下ヲ除ク)分ヲ取纏メ一時ニ前納スルモ妨ケナシ此場合ニ於ケル既納ノ貸下料ハ中途ニシテ返地スルモノヲ返付セサルモノトス

第七号書式中第四条毎年ノ下「八月及」ノ三字及同条ニ左ノ但書ヲ加フ

但借地人ノ都合ニ依リ一箇年分ヲ取纏メ一時ニ前納スルモ妨ケナシ此場合ニ於ケル既納ノ貸下料ハ中途ニシテ返地スルモノヲ返付セサルモノトス

〔法令全書〕

九四一 基本林として森林二万町歩交付の儀稟請

札幌農学校基本林交付之義ニ付稟請

当校基本林トシテ北海道石狩及天塩ノ二ヶ国ニ於テ森林五万町歩交付之義北海道庁長官ト内議済ノ末稟請致シ昨年中石狩国ニ於テ約参万町歩交付ヲ得候処天塩国ニ於ケル二万町歩ノ義ハ林種調査未了ノ廉ヲ以テ未タ交付相成不申候処右ハ本校基本林トシテ同面積ヲ通シテ營林計画相立候上ニ於テ甚タ必要ニ有之候ニ付該森林本校へ基本林トシテ速ニ交付相成候様御詮議相成度此段更ニ及稟請候也

卅四年五月二日

学校長名

文部大臣松田正久殿

付 天塩国森林二万町歩維持資金に編入の件

会甲五四号

札幌農学校

別記ノ森林政府ノ交付トシテ其校維持資金ニ編入ス

明治三十五年一月二十日

文部大臣理学博士菊池大麓 印

北海道天塩国中川郡所在

一 森林 貳万町歩

此価格金參万円

〔農九六二〕

九四二 助教授伊藤清蔵をドイツへ留学派遣の儀具状

札幌農学校第二号

海外留学生派遣ノ義具状

札幌農学校助教授伊藤清蔵

右本人ハ本校出身ニシテ在学中ハ学業優等校費生ノ榮譽ヲ受ケ明治三十三年七月本校ヲ卒業シ同月本校助教授拝命爾来今日ニ至ル迄農業経済学ノ一部ヲ担当シテ能ク職務ニ精勵シ且品行方正授業懇切ニ

シテ将来学業上達ノ見込充分有之殊ニ農業金融論ヲ著述シ其成績見ルヘキモノアリ教官トシテハ至極適任ト被認候条特ニ選抜ノ上農業経済学及農政学研究之為メ三箇年間独逸国留学被命候様致度別紙〔注〕
〔注〕 歴書学業成績表及農業金融論相添此段具状候也

明治三十四年五月十八日

校長

文部大臣宛

〔注〕 別紙履歷書を略す。学業成績表及び農業金融論を欠く。

〔農七六七〕

九四三 校則中改正の件許可

実甲六〇九号

札幌農学校

明治三十四年四月十五日付札幌農第一二一号伺札幌農学校校則中改正ノ件許可ス

明治三十四年七月二十四日

文部大臣理学博士菊池大麓 印

農第一一號

本校々則中改正ノ件稟請

本校土木工学科及森林科入学程度ハ中学校三年修了シタル者ヲ入
学セシムル規程ニ候ヘ共之ヲ既往ノ実験ニ徴スルトキハ入学生徒ハ
学力不同素養不充分ニシテ授業上ニ於テ不都合ノ点不尠候ニ付中学
校卒業生ヲ入学セシムルコトニ其程度ヲ高メ度而シテ之ニ伴フ学科
課程并ニ授業料及入学手数料ヲ一体ニ増加スルノ必要有之候間本校
々則中左ノ通り改正本年九月一日ヨリ実施致度仍ホ土木工学科森林
科現在ノ生徒ニ於ケル学科課程及授業料ハ其卒業迄従前ノ規程ニ拠
ルコトトシ可然裁別紙改正理由由書ヲ添ヘ此段稟請候也

明治三十四年四月十五日

校長

文部大臣宛

第十六条中「二円」ヲ「一円」ニ改ム

第十七条ノ入学願書々式中「一円」ヲ「二円」ニ改ム

第九十八条中「十五円」ヲ「二十円」ニ「六円」ヲ「八円」ニ改ム

第一百五十四条中「中等」ノ二字ヲ削ル

第百五十六条ノ学課ヲ左ノ通り改ム

[illegible]

製図及工事設計	講義 午前	実習 午後	計	一週時間
				三二四
				三七八二四
				三六五二三
				三三二二四
				三三九三九
				三三九三九
				三三五八五
				三三五七五
				三三二四九二四

第一百五十七條ヲ左ノ通り改ム

第百五十七条 土木工学科ニ入学スルコトヲ得ル者ハ中学校ヲ卒業

シタル者トス但シ本条ニ拠ル入学志願者定員ヲ超過シタルトキハ

選拔試験ヲ行ヒ其ノ成績優等ナル者ヨリ順次入学セシム

前項ノ入学志願者定員ニ滿タサルトキハ品行方正身體強健年齡十

七歳以上ニシテ中学校卒業同等程度ノ入学試験ニ及第シタル者ニ

許可スルコトアルヘシ

第百五十八条中「二円」ヲ「三円」ニ改ム

第一百六十条中「九円」ヲ「十五円」ニ改ム

第一百八条中「巴」ヲ「二」改ム

第百八十二卷中「九月」三十一日

第一日一人食一升，第二日二人食二升，第三日三人食三升，第四日四人食四升，第五日五人食五升，第六日六人食六升，第七日七人食七升，第八日八人食八升，第九日九人食九升，第十日十人食十升。

坐斗及果呈

学科及課程

英語	三	一期	第一學年	三	一期	第二學年	三	一期	第三學年
	三	二期	第一學年	三	二期	第二學年	三	二期	第三學年
	三	三期	第一學年	三	三期	第二學年	三	三期	第三學年
	三	一期	第一學年	三	一期	第二學年	三	一期	第三學年
	三	二期	第一學年	三	二期	第二學年	三	二期	第三學年
	三	三期	第一學年	三	三期	第二學年	三	三期	第三學年
	三	一期	第一學年	三	一期	第二學年	三	一期	第三學年
	三	二期	第一學年	三	二期	第二學年	三	二期	第三學年
	三	三期	第一學年	三	三期	第二學年	三	三期	第三學年

代數	幾何	三角術及解析幾何	物理及氣象學	化學	地質及土壤學	森林動物學	森林植物學	農藝學	測量術	圖畫	測量實習	經濟學	造林學	法律學	財政學	森林數學	造林學	森林利用及林產製造學	森林保護學	林政學及森林管理	森林數學實習	林產製造實習	森林經理學	狩獵術
三	二	三	三	三	三	三	三		三	三	二													
三	二	三	三	三	三	三	三		三	三	二													
三	三	三	三	三		三	三	三	三	三	四	二												
						三	三	三	六									二	三	三	三	三	四	二
						三	三	三	六									二	三	三	三	三	四	二
						三			六									三	二	三	三	三	三	四
						三												三	三	三				
						三												三	三	三				

一 数学科ハ第二学年二学期ニ終リ力学及図式力学ハ第二学年三学

期ニ五時間ヲ授ケタルモ斯テハ橋梁、鐵道、授業上差支アルヲ以テ数学ヲ第二学年一学期ニ終リ力学ハ重モニ第二学年二学期迄ニ授クルコトトセリ

一 測量術ハ第一学年三学期ヨリ授ケニ学年三学期ニ終リタルモ斯クテハ教授時間ノ宜シキヲ得サル為メ第一学年一学期ヨリ之ヲ授クルコトトセリ

一 墜道、鐵道、道路、石工、水利、器械、衛生工学、造家、橋梁等ノ教授学期ノ變更ハ授業時間都合上必要アルニ由ル

造家	衛生工学	器械工学	水利工学	石工	道路	鉄道	墜道	建築材料	力学及図式力学	同実習	測量法	画法	地質	化学
											四二二三	四		
											四八二			
								三	二	九四六				
					二		二	三	六	九二三				
			四三二				二	三	六					
	三	三	四			四			二					
	三	三	三			五								
二	三					五								
二	四													
ニ必要アルニ由ル	八時間ナリシヲ九時間ニ増加シタルハ授業上	六時間ナリシヲ四時間ニ減シタルモ亦同シ	十一時間ナリシヲ十時間ニ減シタルモ亦同シ	五時間ナリシヲ四時間ニ減シタルモ亦同シ	十五時間ナリシヲ十四時間ニ減シタルハ其時	間ニテ十分ノ見込ナル	ルニ由ル	ハ本科ヲ新ニ加ヘタルニ於テ必要アル	テナリ	十四時間ナリシヲ十六時間ニ増加シタルハ十六時間不足ノ感アルヲ以			知ルハ土木事業上ニ由ル	同シ理由ナルニ由ル

橋梁	土木法令及経済	製図及工事設計	週一講義 計実習
			三二四
			三八二
			六五三
			六三二
		九	三九二
		九	三九二
		五	三五七
	三	二	三五二
	三	二	三九
十三時間ナリシヲ十二時間ニ減シタルハ授業時間過多ナルニ由ル		而巳授ケタルモノ土木事業上必要ナルモノナラザレバ授クルコトセ	

森林学科科学課程改正理由書

森林科ノ程度ヲ中学校卒業程度ニ高ムル必要ハ現在ノ生徒ハ素養不
充分ニシテ授業上不都合不勘ニ由ル説明スルコト左ノ如シ

第一年度ニ於テ

一、代数及幾何学ノ時間ヲ減ジタルハ従来中学第三年級卒業ノ者
ヲ入学セシメタルナレトモ中学全課卒業ノ者ニ改メタルヲ以テ之
等ノ学課モ改正時間ヲ以テ習得シ能フモノトス

二、解析幾何ヲ加ヘタルハ森林数学ノ原理ヲ修ムルニ必要ナルヲ以
テナリ然レトモ茲ニ三角術ト合セテ前三角術ノミノ時ト一週僅ニ
一時間ヲ増シタルノミナルハ前項ノ理由ニヨリ入学生ノ三角術ニ

対スル学力増加セルニ由ル

三、物理学及氣象学ノ時間ヲ減ジタルハ又第一項ト同理ニ由ル

四、動植物学ヲ森林動植物学ニ改メタルハ普通動植物学ハ前同理ニテ既ニ修得シタル者トナリタルニ由ル

五、漢文ヲ除キタルハ既ニ中学ニ於テ修メ終リタルトセルニ由ル

六、図画ニ時間ヲ加ヘタルハ改正前ヨリ専門学課高等トナルヲ以テ之ヲ修ムルニ必要ナルニ由ル

七、英語ヲ新ニ加ヘタルハ前同理ニ由ル

八、経済学及農学ヲ此学年ニ加ヘタルハ授業上ノ便宜ニヨリ第二年

級ノ者ヲ繰上ゲタルナリ

九、実習時間ヲ變シタルハ教授上毎週一回ニ行フヲ便宜トセル故ニ

造林学ニ於テ足ラザルヲ増シ測量ニ於テ余レルヲ減ジタルナリ

第二年級ニ於テ

一、英語ヲ新ニ加ヘタルハ第一年級ニ於ケルト同理ナリ

二、森林数学ノ時間ヲ増シタルハ程度ヲ稍ヤ高等ニセン為ナリ

三、森林利用学及林産製造学ノ時間ヲ減シタルハ教授上ノ便宜ニヨ

リ第三年級ノ時間ト繰代ヘタルナリ

四、林政及管理論ハ教授ノ便宜ト程度ニ応ズル為ニハ多クノ時間ヲ

要セズシテ足ルヲ以テ時間ヲ減シ且ツ變更セリ

五、学課総テ高等トナルト共ニ法律学ノ知識ヲ要スルコト又必要ナ

ルヲ以テ現行森林法規ヲ改メテ法律大意及森林法トセリ

六、造林学実習ノ時間ヲ改メタルハ第一年級ニ於ケルト同理ナリ

七、森林実習ヲ森林数学実習トシタルハ實際ニ行ヒ来リタル者ヲ文字ニ顯ハシタルノミニテ第一第二学期ニ之ヲ除キタルハ学課ノ進

歩ト当地ノ氣候上実行シ得ザルニ由ル第三期ニ於テ時間ヲ以テ顯

ハシタルハ規則正シク実習セシメン為ナリ

八、財政学ハ第三年級ノ者ヲ教授上ノ便宜ニ由リ本学年ニ移シタル

ナリ

九、森林經理学ハ又教授上ノ便宜ノ為第三年級ニ移セリ

十、林産製造実習ハ多クノ時間ヲ要セザルヲ以テ之ヲ減シ且実行上

ノ便宜ノ為第三学期ニ改メタリ

第三年級ニ於テハ

一、森林利用及林産製造学並ニ森林經理学ノ時間ヲ増シタルハ第二

年級ノ時間ヲ繰代ヘタルモノナリ

二、実地演習ヲ森林經理学実習トシタルハ実行シ来リタル者ヲ書キ

顯ハセシノミナリ

三、農学ヲ除キタルハ一部第一年級ニテ教授シ且第二年級マデニテ

充分教ヘ終ルヲ得ルヲ以テナリ

九四四 校務規律等に関する上申書

上申書

生等本科第一年級学生一同謹テ一書ヲ校長佐藤博士閣下ニ呈シ聊カ望ムトコロアラントス生等ノ玆ニ至ル愛校ノ赤心禁シ難ク遂ニ不順ヲ省ミス思フトコロヲ述ヘントス肯容セラル、アラバ幸甚タシ思フニ校運ノ伸長ハ学校及ビ学生ノ意向宜シク一致団欒ノ下心平ニ愉快ノ光ヲ以テセサレバ為シ難キヤ明カナリ生等懇篤仁愛博識ノ師ヲ戴キ日夜学海ニ棹シ尚要メントスルハ既ニ多カルベシト雖トモ臚ヲ得テ蜀ヲ望ムハ人生ノ常ナリ況ンヤ我校ノ歴史人材ノ養成学海ニ貢獻セシトコロ艱カラズ惟フニ我国ノ将来猶我校ニ待ツモノ多カラン而シテ生等大学の教育ヲ受クル者ニ至リテハ望蜀ノ念敢テ過多ナラサルヲ信ズ玆ニ我校ヲ見ルニ規律ノ上ニ器械整備ノ上ニ事務方針ノ上ニ直接ニ間接ニ欠クトコロ豈少シトセンヤ生等愛校ノ念禁シ難ク個々指摘シ以テ我校我家ヲ助クル一手段トナセリ閣下ノ賢明ヨク微衷ヲ容レ一考ヲ煩ハサル、アラバ生等ノ喜ビ甚シト云フベシ頓首々々

明治三十四年十月廿日

札幌農学校本科第一年級学生一同

第一 本校事務員ノ事務緩慢ノ遺憾ナカシメンコト

事務員ノ緩慢ハ事務ノ渋滞ヲ醸シ事務ノ渋滞ハ学校事業ノ衰頹ニ重大ナル關係アルハ敢テ喋々ヲ要セサルトコロ顧ミレバ本校事務員ノ動作緩慢ハ吾人常ニ先輩諸氏ト共ニ遺憾トセシトコロナリ而シテ其起因スル処種々ニ存スト雖トモ事務員ノ任選其当ヲ得サルハ其尤タルモノナリ本校今日事務監督調理ノ重任ハ重ニ教職枢要ノ地位ニアル教官諸氏ノ肩上ニアルガ如シ複雑ナル事務ヲ学理研究ニ日尚足ラサル学者ノ手ニ依頼スル絶対的ニ不可ナルナカランモ吾人ハ学者ニ有限ノ身命ヲ以テ無限ノ大真理追究ノ大成ヲ要スト共ニ全ク其性質ヲ異ニセル煩勞混雜ノ事務担任ヲ請ヒ其能力ヲ分岐セシメ勤勉果斷機敏勇担加フルニ完全ナル常識ト共ニ確固ナル意旨トニ依リテ事務ノ渋滞ヲ防カンコトヲ望ムハ豈不可能ナラサルヲ得ン十数年前校務單簡ナル本校ノ規模微々タリシ初萌時代ハ知ラズ今ヤ時運ノ進歩ニ伴ウテ本校規模膨脹ト共ニ事務繁忙トナリ加之新築校舍ノ落成近キニアリ校風振興ヲ計ラントスル今日事務員ノ根本的改革大ニ望ムトコロナリ独リ本校ノ為メノミナラズ延テ世界人道ノ為メ宇宙ノ大真理探究ノ天与ノ特命ヲ持スル学者ノ為メニ当然ノ処分ナリト信ズ

第二 倫理講義ノ時間ヲ設クルコト

倫理ノ研究ハ其目的実践ニアリ單ニ其学説ヲ究メントスルモノニ非ス然レトモ実践ヲ主トスルカ故ニ攻究ノ要ナシトナス可ラズ自

ラ反省の傾向ヲ有スルモノタラバ必スヤ先ツ疑ヲ倫理的問題ニ求メ解決シテ始メテ実践スルコトヲ得ベシ吾人ハ倫理講義ノ必要ヲ説クモノ幼稚ナル吾人ノ道徳ハ之ニ依リ進ミ純美ナル校風ハ之ニ由リ興起センモノト信シテ止マズ

第三 學術用諸機器購入ノ件

嘗テ之ヲ新聞紙上ニ見ル真野実業局長本年本校ニ来リ諸備ノ不全ヲ嘆シタリト吾人ハ日常諸実験ニ於テ甚タ不便ヲ感スルモノナリ諸器械ノ完備希望シテ止マズ文部省当局者已ニ之ヲ云フ今日之ヲ購ムル難事トナサズ新築校舍ノ落成ヲ待ツヲ要セズ

第四 予脩科ニ脩学旅行ヲ設クルコト

脩学旅行ノ利益アル言ヲ要セスト雖トモ只々學問上ノミナラズ其精神的涵養ニ及ホス利益幾何ゾ一致團結ノ精神ヲ養ヒ互ニ志想ヲ交換シ互ノ制裁ヲナスノ好動機タルベシ而ルニ最モ脩養ヲ要スベキ青年ヲ收容セル予脩科二年間ニ於テ一ノ脩学旅行ナキハ実ニ遺憾トスルトコロナリ

第五 制服制帽ノ規定ヲ厳行スベキコト

学生々徒ノ制服制帽ハ本校々則ニ規定アレトモ從來学生々徒ハ規定ノ制服制帽ヲ着用セズ近來不規律ノ極ニ達シ農芸科森林科土木工科ノ生徒皆本科学生ノ制服制帽ヲ用ヒ若クハ之ニ擬シ恬トシテ恥チサルモノアリ如此本校ノ不規律ヲ表示スルモノニシテ一日モ

徒閑ニ附スベカラズ元ヨリ学生生徒ノ不規律ヨリ起リシナランモ規則ノ勵行者タルモノ一考スベキモノナリ外觀ヲ以テ内容ノ推定ヲ下サル、アラバ遺憾甚タシ若シ制帽ノ如キ流用甚タシキ今日變更ノ不便アラバ本科学生ノ制服制帽ノ變更亦得策ナルヲ信ズ

第六 兵式体操勵行ノ事

服從ノ美德規律ノ美風確實ナル動作謹直ニシテ活潑共同一致勇氣鼓舞ノ風ハ之ヲ体操科ニ待タサルベカラス而シテ此等ノ美風ハ習性トナリ生徒ノ品性ヲ高メ徳性ヲ積ムノ基タリ然ルニ本校ノ体操科ヲ見ルニ一週間僅カニ一時間ノ訓練而カモ教官ノ欠勤一学期僅カニ授業一時ナリシハ吾人ノ經驗ニ徴シテ明ナリ姑息ノ訓練何ヲカナサンヨロシク勵行スベキナリ

第七 教室ヲ清潔ニスルコト

教室ノ神聖ニシテ清潔タラシムベキハ元ヨリ論ヲ待タサルトコロナリ然ルニ往々四隅及机上ニ塵埃ノ疊積スルヲ見ル其他標本箱及ヒ窓ノ硝子ハ穢汚云フベカラズ此等ハ神聖ヲ汚スノミナラズ学生々徒ノ健康上甚タ宜シカラス加之外觀我不規律ヲ表ハスモノ以上ノ如キ小使ノ怠慢ニ依ルト雖トモ事務員ノ管スルトコロタルベシ

第八 新入学者ニ対スル件

新タニ入学セントスルモノニ脩業証書ヲ徴スルハ本校ノ習ナレトモ所謂写ナルモノ確固タラサル勿論ニシテ真偽疑フベク其弊ノ

兆セル吾人ノ耳ニスルトコロヨロシク学校長ノ証明書ヲ徴スベキナリ入学試験ノ成績ハ固ヨリ以テ学力ヲ判スルニ足ラスト雖トモ寛大ニ過クレバ其弊顕著ナルベシ信ニ留心スベキ事ナリ吾人ハ信ズ入学試験ハ宜シク厳行シ予脩科二年間ハ所謂大学生候補者トシテ規律及ヒ試験厳行ノ下ニ収容シ學術ノ上ニ徳性ノ上ニ宜シク採選スルノ如何ニ利アルヲ之等ハ直接ニ間接ニ本校ノ品位ニ関スル渺少ナラサルベシ

第九 農芸科生徒取締ヲ厳ニセンコト

農芸科生徒ハ聊カ我学生々徒間ノ制裁以外ニアル如キヲ以テ本校ニシテ取締ヨロシカラサレバ本校全般ノ校風ノ振興得テ望ムベカラズ近來同生徒ノ失態醜声ハ吾人ノ屢々耳ニスルトコロナリ而シテ其實メ我学生ニ懸ル歎スベキノ至リナリ宜シク注意スベキナリ

第十 旅行割引券ノ件

学生々徒ノ脩学旅行ノ如キ不十分ノ経費ヲ以テ比較的至大ノ満足ヲ得ントスル者ナレバ十分ノ研究ヲ得セシメ相当ノ便利ヲ与フルハ学校ノ義務タリ然ルニ本校交付ノ旅行証ノ如キ割引可能ノ会社実ニ少ク東京附近ノ少鉄道^{〔ママ〕}会社及山陽鉄道ノ如キニ対シテハ一ノ能力ヲ有セス又甚シキニ至リテハ本校割引証ニ記載アル会社ト雖トモ本校ヨリ紹介ナキノ故ヲ以テ謝絶スル常ナリ此等ハ全然学生生徒ニ対スル義務ヲ尽サズ又便利ヲ与ヘサルモノナリ此等ハ些少

ニ似タルモ学生々徒ニ於ケル經濟問題トシテ忽ニスベカラサルトコロニシテ研究上影況少カラズ便利ヲ与ヘテ可ナリ

第十一 時間ヲ正確ニ守ルベキコト

時間ヲ正確ニ守ラサルノ惡習十九世紀時代ノ人尚恕スベキモ廿世紀ニ活動セル而カモ高等ノ教育ヲ受クル青年并ヒニ此青年ヲ率キル其人ニシテ未タ惡弊ヲ脱セサルアルハ大ニ歎クベキ所ナリ三大節ノ集合脩学旅行ノ場合ノ如キ然リ タイム イズ マネー 豈無味ナランヤ是等ハ少クモ紳士トシテ恥ツベキ所又所謂紳士タラント欲スル吾人青年ノ為スベカラサルトコロ宜シク学校トシテ厳達スベキナリ

第十二 敬礼励行ノ件

人ノ禽獸ト異ルハ礼アレバナリ顧ルニ学生々徒同級上級或ハ各科ノ者ト会シ敬礼ヲ行フハ稀ナリ甚タシキニ至リテハ教官ニ会シ尚礼ヲ欠クモノアルニ至ル実ニ歎スベキノ至リナリ此際宜ク嚴達敬礼励行ヲ勉ムベキナリ

第十三 集会所ニ関スル件

札幌ニテ学生々徒一堂ニ会シ共ニ胸襟ヲ開クニ適當ナル場所ナキハ不便ノ極ナリト云フベシ然ルニ東都ヨリ或ハ地方ヨリ新タニ来ルモノ或ハ同郷ノ会ニ或ハ同窓ノ会ニ或ハ級会ニ会スルノ際所謂東都の貨席ナキヲ以テ已ムヲ得ズ茶亭等ニ会スルニ至ル然ルニ事

情ノ如何ヲ知ラズ其会合ヲ難スルモノアリ酷又甚シカラズヤ之ヲ
救フハ本校ニ於テ一ノ集会所ヲ設クルニアリ經濟若シ許スナクン
バ指定センモ可ナルベシ例令バ同窓俱樂部ノ如キ又便利ナルベシ

第十四 下駄箱設置ノ件

登校ニ際シ制服制帽靴ヲ穿ツハ一ノ規定ナレドモ病痾ノ為メ和服
着用等ノ為メ下駄ヲ穿ツコト屢々ナリ茲ニ一定ノ下駄箱ナキヲ以
テ廊下ニ散在セルハ一見本校ノ不体裁ヲ表示スルモノニシテ生徒
ノ不注意ニモアルベシト雖トモ下駄箱ナキトキハ一ノ制裁ヲ加フ
ル能ハズ如此ハ本校事務者ノ注意設置スベキモノナリ